

# POINT 1 表現のヒントになる「作家の手法」

「作家の手法」では、生徒の発想や構想のヒントになるよう、作家が作品をどのように発想し、どうつくりあげていくのかを詳しく紹介しています。

**編集部**  
ここがこだわり！

アトリエを何度も訪れ、作品ができるまでの過程を取材し、詳しく紹介しています。

編集部が何度もアトリエに来て密着取材したページです。掲載作品は教科書のためにつくった新作です。

**彫刻家**  
みさわあつひこ  
三沢厚彦



P.40~41  
「生命感をあわす 作家の手法 三沢厚彦」

**生命感をあわす 作家の手法**

**彫刻家 三沢厚彦**

「動物の『らしさ』を追求する」

人が動物に抱いているイメージは、実際の動物とは少し違っているものです。私はイメージと現実の間にある、動物「らしさ」を突き詰めて彫刻作品をつくっています。彫り進めていくと、不思議なことに「ここを彫ってくれ」と木が語りかけてくるようになるんです。それは、木の魂が彫刻になる瞬間なのだと思います。

1961年東京都生まれ。2000年より、クマやネコなどの動物をほぼ実物大の大きさで彫り込んだ彫刻作品「ANIMALS」シリーズを制作している。

クスのノキの骨が立ちこめるアトリエ。ソウやクマなどは広いアトリエで制作するが、小さな動物はここで制作する。

作品の構想を練る  
「ウサギが人間に出くわして立ち上がりよんどした瞬間」をつくりたいという思いから、あえて図鑑や写真は見ず、脳の中のウサギのイメージをスケッチする。紙切れや木片など、手元にあるものにどんどん描く。制作途中にもスケッチし、自分が考えるウサギ「らしさ」を探っていく。

**アイデアスケッチ**

作家がどのように作品を発想したのかがわかるよう、アイデアスケッチを多く掲載しています。

## アトリエの様子

作家の個性があらわれるアトリエで、普段の制作の様子を撮影しました。

## 制作過程

一つの作品が生まれるまでの過程を丁寧に取材・撮影して、紹介しています。

作品ができるまで

- ①木材に下絵を描く  
前と横から見た姿をチヨークで描き、その上から実際に彫る線を墨でなぞるように描く。
- ②おおまかな形を切り出す  
チェーンソーで墨の線を残すように、線よりも少し大きめに切っていく。線は何度も描き足す。
- ③体のラインを削り出す  
彫刻刀でチェーンソーで削った溝を入れ、その溝のみで削り落とすことで体のラインを出す。
- ④少しずつ削って丸みを出す  
自分の思うウサギ「らしさ」を突き詰めて、さまざまなみを使って彫り進める。
- ⑤細部を彫り込む  
彫刻刀を使い、顔や足の細部を彫る。特に目は大事な部分なので、慎重に彫り込む。
- ⑥下塗りしてさらに彫り進める  
形を捉えやすくするために灰色の鉛の具で下塗りし、その後、細かい部分を彫り進める。
- ⑦色を塗る  
形と色の一体感を意識して着色。「色をつけるというより絵を描くような気持ち」で取り組む。

[完成作品]  
Animal-2020-01  
クスノキ、油彩 高さ76cm 2020年

**QRコード**

作家の制作している様子を動画で視聴することができます。

## 「作家の手法」一覧

第一線で活躍されている作家の方々にご協力いただき、作品ができるまでの過程を詳しく紹介しています。

- 画家**  
あさいゆうすけ  
浅井裕介 …… P.4~5
- 日本画家** (新作)  
なかじまちなみ  
中島千波 …… P.8~9
- 画家**  
つがみ  
津上みゆき …… P.24~25
- 画家**  
えんどうあきこ  
遠藤彰子 …… P.28~29
- 美術家**  
よこおただのり  
横尾忠則 …… P.35
- グラフィックデザイナー**  
さとうたく  
佐藤卓 …… P.50~51
- グラフィックデザイナー**  
ひろむらまさあき  
廣村正彰 …… P.53
- デザイナー**  
みながわあきら  
皆川明 …… P.57
- アニメーション作家**  
いとうゆういち  
伊藤有言 …… P.76